



〈1〉「このカメラは女性でも簡単に撮れます」

いまだに操作や構造が簡単なカメラを、「女性でも楽しみやすい設計」と言ってしまう傾向があります。女性の役割はモデルだけではなく、「あなたはただ彼の笑顔を狙うだけ」（リコーオートハーフE2の広告より）などという男性に見られるか、男性を注視するかそれ以外に女性には写真と関わる理由がないかのような抑圧的な男女関係を押し付けるコピーが昔は普通でした。

〈2〉「分かって欲しいという気持ちは、奴隷の気持ち」

1970年代のウーマン・リブ運動家だった田中美津の『いのちの女たちへ—とり乱しウーマン・リブ論—』からの言葉です。「いま痛い人間は、そもそも人に分かりやすく話してあげる余裕などもち合わせてはいないのだ。（略）痛みを原点にした本音とは、その存在が語ることばであり、あたしたちの〈とり乱し〉に対し、ことばを要求してくる人に、所詮何を話したところで通じる訳もないことだ」

大宮です。街が貧乏臭いなど大宮に行く度に思っていましたが、このあいだ大阪から帰って来てすぐに大宮に行ってみたら、とても華やかな街に見えました。東京やその近辺の方が、大阪に比べると格段にきれいです。駅の中や電車の中の広告も東京の方がたくさんあります。日本の富のすべてが東京に集中していると関西の知り合いの人が言っていましたが、その通りなのかもしれません。